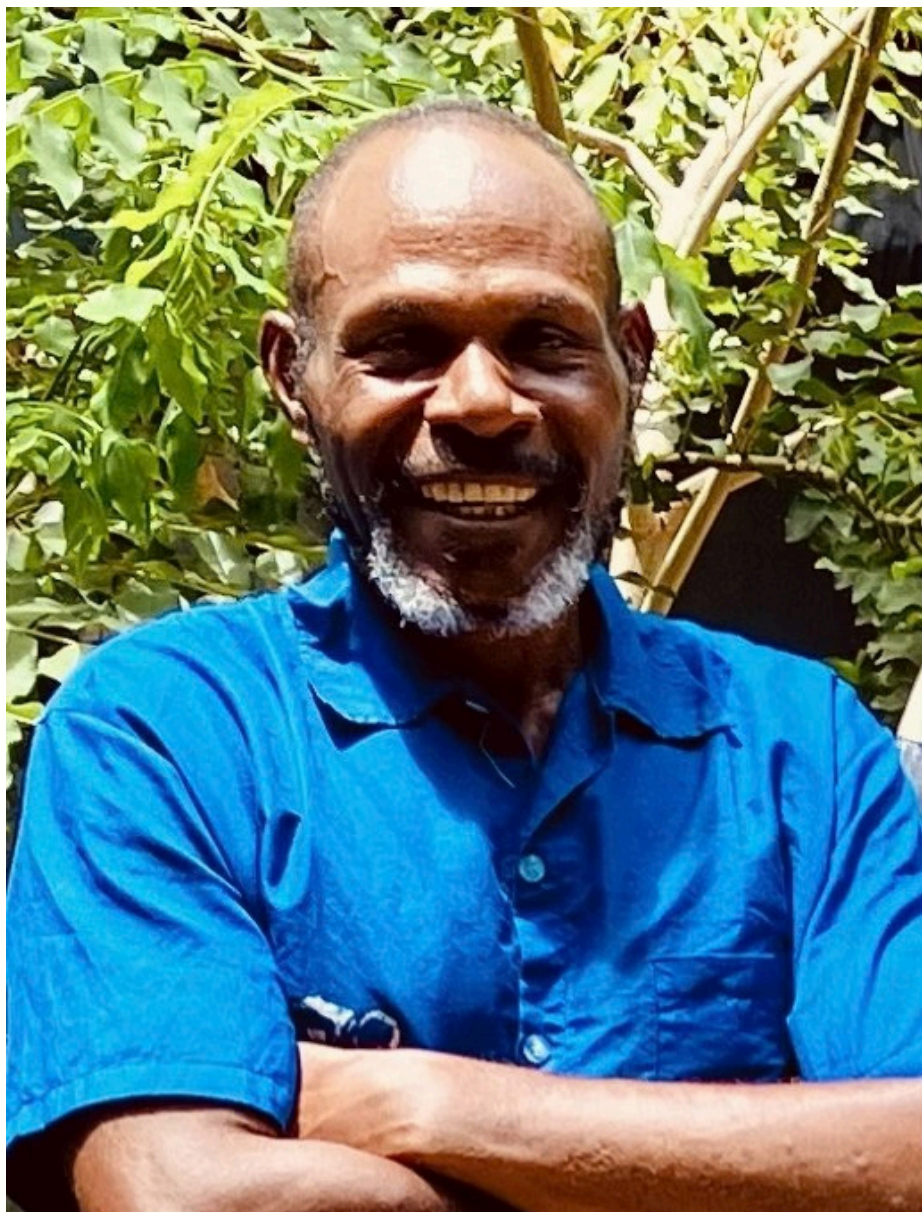


第16回 10月22日(木)13:00～14:30
**「パプアニューギニアの
最後の原生林を守る私たちの活動」**



コスマス・マカメト氏

パプアニューギニアのFORCERT代表



清水靖子氏

「パプアニューギニアとソロモン諸島の森を守る会」代表
メルセス会修道院会員

会場：津田塾大学小平キャンパス特別教室

<講師プロフィール>

・コスマス・マカメト Cosmas Makamet(写真左)

FORCERT代表として、地球最後の、貴重な熱帯雨林の楽園であるパプアニューギニアにおいて、その原生林を守る活動に従事。日本企業を含む、外国からの巨大伐採企業が原生林を伐採していくことに反対して、20年にわたって、現地の住民と連帯し、現地の最後の原生林を守り抜いてきた。バードウォッチングが趣味で、150種以上の鳥の鳴き声を識別できる、豊かな感性を併せ持つ。

・清水靖子 (画像右)

「パプアニューギニアとソロモン諸島の森を守る会」代表・メルセス会修道院の会員

パプアニューギニアとソロモン諸島の原生林を守る活動をして36年。著書に、新版『森と魚と激戦地』（三省堂書店）、『日本が消したパプアニューギニアの森』、『森の暮らしの記憶』など。

<担当スタッフより>

今回は清水靖子さんと、パプアニューギニアからコスマス・マカメトさんに来ていただきます。

皆さんは「パプアニューギニア」と聞くと何を思い浮かべるでしょうか？

「比較的安価で行けるリゾート地」、「海がきれい」、「タピオカ原産地」「コーヒー・お茶の産地」など熱帯雨林気候の恩恵を思い浮かべるのではないのでしょうか。しかし、皆さんはそうした自然の恵みを利益化するために開発を進めようとする企業と現地住民との間で起こっていることについて、どれほどご存じでしょうか？これは決して他人事ではなく、日本企業もまたこの争いに名を連ねています。しかし、そうした事実も、パプアニューギニアの明るく美しい自然に隠されてしまっています。今回は、現地住民として自然を守るために尽力するコスマス・マカメトさんと、これまでに何度も長期間の滞在をし、コスマスさんとも関係の深い清水靖子さんに、まだまだ知られていないパプアニューギニアの原生林についてお話しいただきます。そして、予想もしていなかったお仕事をし、今を歩んでいるお二方の理想と現実のギャップ、どのようにしてそのギャップを埋めてきたのか、パーソナルな部分についてもお聞きできればいいなと思っています。